京城日報

九日夕刊（朝夕刊併せて六頁）

本紙定價　一部金二錢五厘　一ヶ月金五十五錢
廣告料金
發行兼編輯人　印刷人
發行所　京城太平町通一丁目　京城日報社
電話（編輯用）（營業用）　振替貯金口座

●鐵禁輸一部解禁

米國は近日中日本に對し船舶新建造に要する鋼鐵十萬噸の輸出解禁をなすべし（紐育電報）

●秘露愈對獨斷交

秘露政府は同國駐在獨逸公使に對し愈々國交斷絶の通牒を發し同時に旅券を交附せり（紐育電報）

●ウルグアイ對獨斷交發表

ウルグアイ共和國は對獨國交を斷絶せる旨大統領令を以て發表せり（倫敦電報）

●瑞典聯合內閣組織

選法の時ありたる瑞典內閣は十月二日閣員の辭表提出を見るに至りたるも時局に鑑み擧國一致して中立を維持する爲め聯合內閣を組織すべく皇帝の勅語ありたり（ストックホルム電報）

●安南に暴動勃發

佛領安南に暴動勃發し暴徒は首府を占領し勢ひ猖獗を極め事態頗る重大なり（香港電報）

●水害借款成立か

十萬兩[illegible]外國銀行に依賴せる天津水害救濟借款は一兩月中に再び會議を開き決定すべきが多分年利七分とし毎月一定額を交附する條件にて借款の成立を見るならん（北京電報）

●救恤金　御下賜一府二縣へ

皇上皇后兩陛下には八日風水害被害各府縣に對し左の通り御救恤金の御下賜ありたり（東京特電）
▲東京府金五萬圓▲茨城縣金二萬圓▲神奈川縣金七千圓

●聯絡船新造計畫

鐵道院に於ける本土北海道間聯絡船並に關釜聯絡船各二隻は來年三月を以て傭船契約滿期に達するも適當の代船を得ること困難なるを以て新船建造の計畫を立て本年末迄に一千噸級木造貨物船四隻を註文すべしと（東京特電）

●對支投資の好時期　日置益氏談

九日朝入京せし前駐支公使日置益氏を京釜線の車中に訪ふ、曰く

▲舊時の朝鮮　朝鮮も殆んど內地と變らぬやうに開けて來た、余は外交官として日淸戰爭の始まる頃より義和團事件の突發して明治三十三年まで京城の公使館にゐた、卅七年の戰役に京城を逃げ出したのは余の京城に着いて後を訪ひ三歳を擧げて三四日後の事である、其時代は半島に於ける漸退覺醒とでも云ふべく最も近世史に綏化波瀾曲折を生じた際で、之れでも可なり腕を振つた積りだ、朝鮮の今日あるは吾輩の力も大いにと卅年前の功勞を吹聽し、伯爵位は下すつてよからうと云つたら、首相も相好を崩して笑つて居られた……（此は互讓的ゆずりて大笑す）

▲南北妥協せん　支那の南北對峙の形勢も今後如何に移つて行く乎、吾輩の最近接受した情報では大した事にならず、結局兩派折合ふだらうとの觀測だつた、又吾輩も剱下の狀况より妥協が落ちだらうと思ふ、實際支那は亂に倦んである、段祺瑞が總理を退いて徐世昌之れに變るとの說もあるのか徐世昌は南方派とか北方派とか云ふ色は殆んどつかず、人物も温厚支那人の長所を蒐めたやうな醇眞な調和的の人で、今日の如く群雄の多い支那の時局を纏むるには極めて適好の人物だらう

▲對支投資好機　日支の提携を密にする又親善の關係を增すと云ふ事は事新らしく云ふ迄もなく極めて必要な事だ、それを具體化するには兩國經濟關係の紐帶を固くせねばならぬ、此の意味に於て日本の對支投資は極めて良策である、かの興業銀行朝鮮銀行臺灣銀行の三行が今春交通銀行に五百萬圓を貸款し又今回二千萬圓の經濟借款に應じ支那幣政の若干でも整理させやうとするのは甚だ宜しい、實際云ふと日本の對支投資は今日が最上の好機である、やり得るだけやらねばならぬ、何となれば歐洲戰爭のため歐米共に支那投資を手控ゆるの止むなき立場にある、日本は此際國內に充溢せる資金を支那に注ぎ込み經濟上の實力を扶植─から云つても如何にも野心がある樣で惡いが、つまり日支の經濟關係を一層進めておかねと、戰後も今日の狀態の如く若へるのは飛んだ間違ひと云はねばならぬ云々……（尙ほ氏は努めて支那時局談を避けたり）

●稅關定員增加

朝鮮總督府稅關監視員中判任の定員は二百七十三人なりしも十月三日より二百八十四人に增員即日より施行せり

●免稅品追加

近時朝鮮に於て製品の輸移出工業を企畫するもの漸次增加の傾向あり當局に於ては之が保護獎勵の目的を以て現行朝鮮關稅定率令中其の第四條の二に於ける免稅物を追加し十日附府令を以て公布十月十五日より實施の事となれり、其の品目左の如し

一、第一條第四號中繰絲とあるを繰絲、眞田紐、木針に改む
二、織紐を製造する爲め輸入する綿絲
三、紙製帽子を製造する爲め輸入する紙製帽體材料
四、煙草製造の爲め輸入する葉煙草卷紙、口紙用原紙、吸口用原紙包裹用原紙及金箔類
五、魚介類罐詰を製造の爲め輸入する罐及び葉鐵
六、洋服を製造する爲め輸入する表地及び裏地用織物
七、柞蠶紙を製造する爲め輸入する柞蠶繭
八、大豆油及び油粕を製造する爲め輸入する大豆

●製鋼所設立　位置は仁川萬石洞

東京林金五郎氏は豫てより朝鮮に製鋼所を設立すべく計畫し安州元山、漢江沿岸、仁川の各候補地を調査研究中の處今回愈々仁川を選定し既に萬石洞猫島附近の土地一萬坪を買收する事となりたるが事業の內容は投資三十萬圓にて熔鑛爐十基を備付け本年內には二基を設け直ちに製鋼に着手すべく將來は富士製鋼株式會社の事業の一部として經營さるらんと因に林金五郎氏は九日夜仁川官民有力者五十餘名を八阪樓に招待し今後に於ける經營上其他の意見を聽取すべしと（仁川特電）

●內地の石油界　內藤日油社長談

日置氏と同行せる內藤日本石油會社長は曰く內地の石油層は北海道より臺灣に亘る約五百里に及び居るも何ほ石油事業は必らずしも振へりと云ふ能はず唯近年採掘しか[illegible]らざる乍らも石油湧出量增進せること一方外油の輸入は船腹不足に依る運賃の暴騰並に油價暴騰による其の燈火者の需要に移れる等の事情により大に減じ來り三四年前年額七百萬圓を計上しゐたるも昨年は百二十萬圓に減じたり、今後一日も早く內地の需要は內地產油を以て充し更に進んで朝鮮に於ける一年六十萬箱の石油輸入の如き之れを內地產油にて供給する時期に進ましめ支那にも大に輸出するの必要ありと信ず何ほ內地に於ける石油の產額は燈火用約二千萬圓機械油其他合計約一千萬圓なり

●定例長官會議

九日は定例長官會議日なるより長谷川總督、山縣政務總監以下各部長官局長所屬官署長等は午前十時より總督府第一會議室に參集通常政務に就き協議打合せ正午散會したり

●海軍大演習と鎭海

本月二十七日より開始さるべき秋期海軍大演習には陸上要港部も參加することとなり東鄕司令官は赤軍松大將の下に最高幹部たるに決したれば目下同部は著々準備に忙殺されつゝあり尙ほ今回の演習には工廠、港務部、病院、海兵團、防備隊、望樓、無線電信、經理部、人事部等悉く戰事勤務に入り赤軍の主力山城扶桑以下約三十隻の艦隊は鎭海灣を根據として作戰計畫を繞らすべく同時に海軍航空隊は同灣空上を潜航艇又た鎭海に活動する筈（鎭海）

●全鮮記者大會

全鮮記者團大會は京城日報社長阿部充家、朝鮮新聞社長萩谷籌夫、セウル・プレス社長山縣五十雄、日本電報通信支社長牧山耕藏、京城通信社長大垣丈夫以上五氏の發起にて十三日より京城に於いて開催會員出席者三十四名にて其の順序は十三日午前十時朝鮮ホテルに集合直ちに懇話會開催午後零時三十分朝鮮ホテルにて開催の東洋拓殖會社の招待午餐會に臨み午後六時三十分より花月にて開催の南滿鐵道會社京城管理局の招待晩餐會に出席十四日正午千代本にて開催の朝鮮銀行招待午餐會に臨み午後三時より南山本願寺にて故代議士[illegible]氏の追悼法會を行ひ午後六時三十分より千代本にて開催の朝鮮新聞社主催の懇親會に出席、尙ほ十五日は山縣政務總監の午餐會に臨み午後には[illegible]警務總長の晩餐會に出席すべく同會出席者氏名左の如し

全鮮記者懇親會員

京仁の部（計二十一名）

朝鮮新聞社長	萩谷籌夫
京城通信社長	大垣丈夫
朝鮮新聞副社長	尾西要太郎
國民新聞通信員	奧田尚毅
朝鮮新聞主幹	小幡虎太郎
朝鮮新聞京城支社長	川島[illegible]
大阪朝日新聞京城特派員	橋[illegible]香橘
京城日報社[illegible]	中村健太郎
京城日報社理事	上田[illegible]三
セウル・プレス社長	山縣五十雄
大阪每日新聞京城特派員	山口諫男
朝鮮公論社長	牧山耕藏
京城日報編輯局長	松尾茂吉
セウル・プレス記者	布施知足
京城日報理事	藤村忠助
日本新聞信社京城特派員	具縮春也
京城日報兼每日申報社長	阿部充家
日本電報通信編輯長	有馬純吉
京城新聞社長	青柳綱太郎
滿洲日々新聞京城支局長	菊田良卓
朝鮮雜誌社長	釋尾春芿

地方の部（計十三名）

西鮮日報社長（鎭南浦）	長谷川義雄
元山每日新聞社長（元山）	西田常三郎
北鮮日報社長（淸津）	岡本常次郎
南鮮日報社長（馬山）	岡　庸一
開城新報（開城）	岡本豊喜
鴨江日報社長（新義州）	加藤鐵次郎
朝鮮時報社長（釜山）	高木末熊
群山日報社長（群山）	富澤保一
光州日報社長（光州）	相川[illegible]
木浦新報主幹（木浦）	長野虎太郎
朝鮮民報主筆（大邱）	久納重吉
釜山日報社長（釜山）	芥川正
全北日々新聞社長（全州）	卜波千海

●中村技師辭任

總督府技師中村彥氏は十月七日附を以て辭意を提出したり、此は在鮮七箇年一意朝鮮農業の開發に盡し來れるが斯界は基礎既に定まり生產日を追ふて增進せるより此の機に於て勇退せるもの十日午前八時三十分南大門驛發汽車にて家族同伴東京に引き上ぐる事となれり

●日置公使入京

無任所特命全權公使日置益氏は內藤日油社長同伴九日午前八時五十分南大門驛著列車にて入京朝鮮ホテルに入りしが停車場には國分次官、久水課長外官民の出迎ひ多かりき尙ほ兩氏は京城各方面を視察し十日夜若くば十一日朝京城發鎭南浦平壤を視察し支那に向ひ來月末迄に靑島より歸朝すべしと

●山本達雄氏來鮮

政友會總務山本達雄氏は同會代議士長島鷲太郎小阪順造氏同行八日東京出發京城經由滿洲並に南北支那巡歷の旨其方面に通知あり近く入京すべしと

●日置公使訪問

九日朝入京したる無任所特命全權公使日置益、大日本石油株式會社長內藤久寬兩氏は朝鮮ホテルに少憩の上午前十時自動車を驅つて總督府に長谷川總督、山縣政務總監等を訪問入京の挨拶を爲せり

●東拓の張宴

東拓にては吉原三次の披露として九日午後六時半より京城新聞通信代表者同社出入記者を千代本に招じ張宴せり

●中村技師送別會

總督府技師中村彥氏辭任に就き官民有志發起の下に九日午後七時より同氏を花月に招待送別宴を張れり

●久保局長挨拶

滿鐵京城管理局長久保要藏氏は鷲尾滿鐵理事と同伴九日午前午後に亙り京龍官民有力者を歷訪し着任の挨拶をなしたり

●亥角氏出發期

新任鳥取縣內務部長亥角仲藏氏は十日午前八時三十分南大門驛發列車にて赴任す可し

●徐參與官出發期　新任忠北道參與官徐相勛氏は十三日出發赴任の筈の處十五日朝南大門驛出發に延期せりと

●故秋山氏一周忌　故秋山[illegible]官の一周忌法會は既記の如く八日午後四時半より本町三丁目淨土宗開教院に於て營まれしが當日は宇佐美內務長官、關屋學務局長其の他官公立學校職員等多數の參拜者ありたり

人事消息

▲竹內遊氏（咸南道技師）九日朝入京浦尾旅館へ
▲白井水城氏（辯護士）八日大邱へ
▲岡十郎氏（東洋捕鯨會社長）九日元山へ

阿部詞兄へ　堀內信水

久振御面唔數分間の快談中無限の妙味を覺え申候京城の發展には敬服仕候尙日鮮人精神的化合向上、新居候山縣總監には各所に於て至大の溫情を蒙り感謝に堪へず拙詠呈出被下度候

溫かき君がなさけのもてなしに旅の憂さをも忘れはてけり

左甚五郎　第五十一席

桃川如燕口演　浪上義三郎速記

大津屋仙右衞門は守信の一言を聞いて呆れて顏を凝視て居りましたが、仙『失禮ながら旦那、貴下は何んでございます』守『俺は畫工だ』仙『へエー、そんなお扮裝を爲すつて居らしつて、猶且畫の先生で』守『馬鹿を云はつしやい、扮裝の善惡で畫を描くものか、お前なぞは扮裝が善いと總て名人と思ひ、扮裝が惡いと未熟と思ふ、何うも小人は困つたものだ、扮裝は粗末だが畫を描かして御覽、日本一の名人だ』仙『へエー貴下は日本一で何と仰るので』守『狩野探幽守信と云ふのだ』仙『たんにゆう……』お扮裝も汚ないがお名前も何だか餘り高麗なお名前じやアない、折角でございますが、まアお斷り申しませうよ』守『コレ／＼亭主、俺は筆を貸つてそれが爲に描かうと云ふ、そんな賤しい根性は有ぬ、只あの屏風が氣に叶つたから描いて遣らうといふのだ』仙『御親切は有難うございますが、誂儀はお前が出すでも、出さないでも、そんなことは俺は頓着はない、唯々屏風が氣に叶つたから描いて遣らうといふのだ』仙『御親切は有難う存じますが、貴下が描いて下すつたにしろ、屏風を唯見れる人はない、安い屏風でやアございませんからな、そんなにまア先生描きたいなら臺所に遠州屏風が二枚ありますから、あれへさ描きなすつたが宜うございませう』と仙右衞門プンプン腹を立てゝケンもホロゝの挨拶、守信も亦大いに立腹して座敷へ戻つてしまふ、後姿を見送つた仙右衞門、仙『お鍋、是からもあることだ、目先を利かして客を引くが宜い、あんな氣狂ひなぞを引張つて來ちやア叶はねえ、日本一だなぞと黍團子でも賣つて歩きやアしめえし、人のことを小人だと云やアがつた、せうじん（精進）も生臭物もあるものか』と主人は腹を立てゝお鍋に小言を云つて居る、此方は守信其の晚枕に就いたが、癪が障つて何うしても睡られない、夜は次第に更渡る、泊りの客は、皆な枕に就いたものと見えて、何處の座敷でもグーグーッといふ鼾の聲、ゴタリといふ物音もいたしません、餘り氣になるから又降り座敷へ出て來て屏風を見ると、暗にも輝く金色に、さア何うも守信腕がムズ／＼して描いて見たくつて堪らないから、守『待てよ、亭主が叶けないと云ふのを俺が無斷で描く、判つたら怒るだらうな、何うするだらう、尤も無斷で畫を描いたつて俺の首を取るの、腕を捥ぐのと云ふほどのこともあるまい、結局鍋墨か何か面へ塗布れて宿を叩き放しになる、まアそんな處が落だ、旅の恥は搔き捨だ、鍋墨を面へ塗られやうが棒縛りにならうが構ふことは無い、餘り氣に叶つた屏風だから一番腕を揮つて描いてやらう』と離れて座敷へ歸つて來て、包みの中から取出した小さな小田原提灯、是は途中で日の暮た時の用意に持つて居る、蠟燭の用意もあるから其の蠟燭へ燈火を點け、座敷へ持つて來て屏風を其處へ取出し、蠟汁が澤山でございますからそれを持出して、待て／＼此處にあるのは蠟山の筆刷毛だ、俺が腕を揮つて描いた跡で蠟山の筆刷毛が何う慾うと云はれると面倒だ、待てよ、落物の扶を探つて汁拭の手拭の二つに引ッ切れたやつがある、是が宜いと出して見ると、手足を拭いたりいろ／＼に遣ひますから汚れて居る、硯と筆を臺所へ這ひ出て來て、水口に砂でも含んで居て屏風の地でで、スッカリ之を洗ひましたけ、も痛めてはならないといふ注意、座敷へ戾つて參り著物などを濯て居りましては、思ふ樣に叶きませんから裸體になつて座敷の中央へ突立てツンと屏風に眼を据ました

新築落成　京城明治町一丁目　入院隨意　胃腸病院　電話一六五九番　院主　佐々木杢造

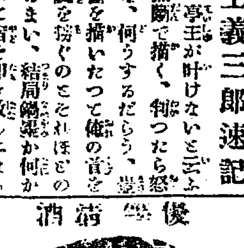
秋風見たさに木村屋パンのみやげ片手にいそ／＼と（京城明治町　電話一八七〇）

曆

十月十一日　九星　舊八月廿六日　丙戌　本命二黑　坤卦　先負

▲二黑 [illegible] ▲三碧 [illegible] ▲四綠 [illegible] ▲五黃 [illegible] ▲六白 [illegible] ▲七赤 [illegible] ▲八白 [illegible] ▲九紫 [illegible] ▲一白 [illegible]

かつけに　尾崎糠精　全國藥店に有
村井弦齋先生命名實驗證明　販賣元　東京中澁谷町　尾崎兄弟商會

優等清酒

釀造元　福岡縣三井郡山川村　富安本店
發賣元　京城永樂町二丁目　富安京城支店　電話　振替口座

公債株式現物問屋
東京株式取引所仲買人
東京市日本橋區坂本町二番地
細野傳次郎商店
電話浪花　四〇九番　五〇三番　長六〇一番　長六八九番　長六八八番　九二番　二五〇番
電信略號ホソノ

賜天覽榮
闘犬界の大歡迎
土佐名物　闘犬大相撲　武士道鼓吹
當る十月十二日より晴天五日間（午前十時開會）
於東京大相撲場所
京城明治町　勸進元　西田嘉三

內科　胃腸病　診察夜九時迄
京城本町一丁目　石川醫院　電話[illegible]

京城永樂町二丁目（商品陳列館裏門通）
電話二六〇〇番　一八〇〇番
入院隨意　酒井婦人病院　院長　酒井一郎

颱風來らん

全鮮の警戒

本月七日呂宋東方海上に現はれたる颱風は漸次北進し九日午前六時の觀測に依れば該颱風の中心は八重山群島石垣島の東方海上にあり中心示度七百四十粍内外なるものゝ如く之が爲め琉球諸島一帶に風雨を催し那覇及び安美大島諸島共雨ありたり目下の狀況にては該颱風は倚ほ西北に向つて進行しつゝあるも漸次東方に廻行せんとする模樣あれば九州南部は颱風の襲來を受く可く朝鮮海峽も十日朝に至らば之が影響を受く可し該颱風は十日に至らば一層明瞭す可きも萬一東方に變ずる事なく進行を繼續するときは朝鮮に襲來する事となる可く此所一兩日は最も警戒を要す(九日午後二時半觀測所發)

彦山丸

敵潜水艇に擊沈さる

神戸松本氏所有汽船彦山丸は敵潜水艇に擊沈され乘組員卅名十月六日午後西班牙カデスに上陸したり(倫敦電報)

水害寄附金

廿四萬圓 東京救濟會へ

東京商業會議所に事務所を置ける風水害救濟會に宛て八日夕刻迄に集まれる寄附金額二十四萬圓餘に達せるより東京府及び東京市に各十萬圓宛配送せり府にては右金額を米の購買假住宅の建築に充つべし(東京特電)

薪や炭が段々高くなる

近來薪炭の大暴騰に伴れて彼方此方に種々な現象を生ずるのは止むを得ない次第であるが支那の

■戎克船迄 も手を出して群山邊りでは支那戎克船の薪買收が著るしく增加し出帆の都度滿載し輸出を企つる爲め其の價格は益々騰貴し從來一圓に對して五十把位のものが目下の處では二十五六把となり

■其の結果 は却つてボイコット的に需用不足を訴ふる樣な現象を呈するに至つた、そんな事には頓著も無く輸出者側では群山に於て百斤三十錢位のものが支那山東省地方では

■一圓以上 の高値を唱へ居る事とて相當の利益ある事を見越し益々盛んに之が輸出を企畫するもの多く成る一方だと云ふ斯んな狀況で尚引續き薪の輸出を爲すに於ては支那山東省島方面は群山薪の供給を

■不斷に仰ぐ 事となり地方薪炭の暴騰は阻止される見込も無い樣になつて仕舞ふと一般に杞憂を招きつゝあると言ふ事である

住友伸銅場主任の奇禍

大阪住友伸銅場主任黑田喜三郎氏は八日夕刻人力車にて通行中俥が過つて阪神電車と衝突し黑田氏は俥より地上に投げ出され即死せり(大阪特電)

朝鮮の八年間=隔世の感

合併後に於ける内鮮人の融和と喜ぶべき現象 亥角仲藏氏談

今度鳥取縣の内務部長に榮轉せる前警務總監部會計課長亥角仲藏氏は十日早朝南大門發赴任の筈なるが、同氏は明治四十三年五月來任し、併合前後八年間の過渡期を朝鮮に過ごせし人なり。

自分の來た頃の朝鮮と今日の狀態とを較べると恰かも隔世の感がある、第一合併當時の朝鮮は隨分ひどい秩序が亂れてゐた、之を

◆今日に比較 すると(一)暴徒の絶滅したこと(二)強盜の減少著しく殊に都會地に於ける強盜などは殆ど跡を絶つに至つたこと(三)賭博の如き射倖的思想を漸次に矯正して追々一般の民心(鮮人)が着實に向いて來たこと(四)迷信浮浪の徒が減少したこと(五)迷信其他惡習慣を矯正したこと(六)纏頭拉去(七)白銅僞造(八)墳墓荒し(九)一八(十)亞片罪等の劇減したる事等で是等は憲兵警察機關の統一以來鋭意歴代の警務總長以下各當局が

◆民心の秩序 を矯正に努力した賜であるが、又た一方に於て民度の向上すると共に智能的犯罪の增加したのは蓋し已むを得ざる結果であらう。即ち兇暴な強盜犯等の減少すると共に窃盜詐欺橫領等の犯罪者が增加した次第である。而して一般民心の向上した事は著しきもので以上の外

◆喜ぶべき事 は(一)衛生思想の發達(二)國語解得者の增加即ち大體の鮮人には日本語が通じる樣になつたこと(三)内鮮人の融和等で殊に内鮮人の親和は併合前の如き互ひに吳越の如き心掛けでゐたものが、併合後漸次に融和して内地人は鮮人を勞はり、鮮人は内地人を尊敬するといふ氣風が次第々々に高まつて來たことで之を要するに朝鮮統治の實は擧り爲政者側のみならず在住内地人側に國民的統一の必要を認められて漸次に新領土の人々と母國の在住者と互に融和して親しくなりつゝあるのは喜ぶべき現象である

天氣豫報(九日午後六時より十日午後六時迄)

晴れ一時曇り

漂流中救はる

佐賀縣東松浦郡滿島村廣榮丸船長向井寅五郎(四三)は乘組船夫二名と同船に乘込み福岡縣絲島郡深江港より青竹三百二十束を積込み對州を經て釜山に航行中六日午前十時頃加德島沖合十哩の個所にて強風に襲はれ帆柱を折斷せられ水船となり漂流せるを出漁中なりし牧ノ島洲岬漁夫山崎重松に救助せられ無事乘組人は釜山に著したるも船體及び積荷は流失したる爲め損害は九百圓なりと(釜山)

裡里地方初霜

全南裡里地方は數日來俄かに朝夕著しき冷氣を感じしが七日朝に至り初霜を見たるより農家園藝家は冬の準備に著手せり(裡里)

安藤氏の奇禍

朝鮮郵[illegible]會計課助役安藤熙次氏は數日前大和町にて人力車より落ちて腰を折り目下總督府醫院に入院加療中なるが[illegible]約一個月位にて全癒の見込なり

仁川取引所へ銀盃

仁川米豆取引所は昨年十月虎疫侵害の際仁川府へ對し臨時防疫費として金五百圓を寄附せしを以て去三日附にて賞勳局より銀盃一個を下附せられ賞狀と共に其程仁川府へ到着せり

瀧中佐令孃の訃

[illegible]務部長瀧元治郎氏の三女よし子孃は豫て病氣入院中の所療養の効無く十月九日午前九時逝去せり葬儀は來る十一日午後四時自宅出棺[illegible]町妙心寺にて營む由

北原氏令閨の訃

織[illegible]加一氏の女にして北原利男氏の令閨なる[illegible]は豫て病氣の處九日午前四時二十五分永眠せり葬儀は十一日午後三時[illegible]米倉町[illegible]にて營む由

秋空を斬つて

自動車風の如く

京城水原間の新道七十哩を往復するの記 秋の華山館にて 三好生

■メイ今から自動車で水原に行くから一緒に往け——と突然怒いふ編輯長[illegible]

[illegible]

る閔永徽子府の令息で廣業會社の取締役たる閔大福さんと韓一銀行取締役の金漢奎さんと無佛社長秘書の方さんの三人を合せて五人、金さんを除く外は孰れも背廣服の輕裝で、これから土木局の所謂京城釜山間の一等道路を長驅三十哩水原に急ぎ、更にそれから李朝二十二代の聖王正宗大王並びにその父王莊獻世子の陵墓を訪ねようといふのであつた。

■大門通り[illegible]

■小旗を振りながら、萬歳を浴びせかけて狂喜する村童の群を衝いて鷺梁津を過ぎ、沃野曠く展くる所、鎌を待つばかりに豐熟して穗垂れた黄金色の稻田が物靜かな秋の日に輝く永登浦附近に來ると自動車運轉番號四十六號の鑑札を受けたといふ閔さんの運轉手君と代つて把手を執る。路は坦々たること髮の如く、時に白衣の人の牛を率いて或は衣冠正しく悠々闊歩して來る外は行く手を遮る何物もない、此の邊り、閔さんをして運轉操縱の手腕を揮はするには最も適し一時間四十哩近き快速力を出せば、人なきところを見計つて一時に[illegible]

砂塵漠々として雲の如く起り、車を斬つて驟ること儘の如く風の如しといふも尚ほ及ばぬ位で、個々遠くより路を避けた者が、その響びに怖れてか額に手を當て平伏してゐたのも、氣の毒なやうだが痛快であつた。

[illegible]

文樂一座乘込

▼初日の語物

文樂座淨瑠璃豐竹古靭太夫一行は既報の如く今九日午後七時三十分南大門著列車にて乘込み、花柳界及び各師匠連其他關係者多數の出迎を受け巴城館に投宿する由倚ほ當館前には櫓を設け提灯其他にて華々しく裝飾を施し頗る景氣好く見受けた初日(十日)には古靭の沼津、鰻の油屋等何れも得意の語り物なれば定めて好評を博すべし其の語物次の如し

▲松下大功記十段目 長太夫 ▲[illegible] ▲御所櫻三段目 [illegible] ▲伊勢音頭油屋 [illegible] ▲沼津 古靭太夫

竹本錣太夫

豐竹古靭太夫

商況

債券現物特電

[illegible]

公債直取引

[illegible]

深川正米特電

[illegible]

東京期米特電

[illegible]

大阪株式特電

[illegible]

大阪三品特電

[illegible]

大阪期米特電

[illegible]

下關期米 同電

[illegible]

仁川取引所 九日の十二月限

[illegible]

雜報

◉三品綿布氣直る 九日の三品人氣は米棉不明當限二百五十四圓四十錢先限四十八圓[illegible]

◉綿布現物二錢先物八 [illegible]

◉澱粉時期待 [illegible]

圓二十五錢 [illegible]

▲南大門の廻穀 [illegible]

▲釜山穀物(八日) [illegible]

▲混沌たる當限 [illegible]

▲解合王數の附け出し [illegible]

▲終れば殘玉僅に一 [illegible]

▲萬石内外 [illegible]

▲賣方 [illegible] ▲買方 [illegible]

▲當月限の受渡し皆無 [illegible]

▲當限解合値段 [illegible]

仁川期米

▲九日前場(保合) [illegible]

▲晴天大阪天候 [illegible]

十八錢安の入電 [illegible]

八錢安に寄付 [illegible]

確實 [illegible]

◉正米持合ふ [illegible]

▲大阪二節ご小 [illegible]

十五錢ご小 [illegible]

迅速 [illegible]

二十圓二十錢 又七十錢 [illegible]

買控高値は一齊 [illegible] 二十七錢の入電

數昧に頓 [illegible] 買物漸く多 [illegible]

双方睨合 [illegible]

裡持合 [illegible]

▲商小相場乎 [illegible]

人氣稍氣迷 [illegible]

◉鐵價下落比較 [illegible]

▲依然保合 [illegible]

市場寄閑 [illegible]

演藝案内

浪花館 京城明治町 電話二六○

◎東京落語豐蘭[illegible] 十月五日より開演 三遊亭圓左大一座來る [illegible]

入場料 八十錢、六十錢、一等一圓二十錢 [illegible]

壽座 京城壽町 電話五七八番

[illegible]

壽館 京城本町 電話一○五○

▲大阪文樂座淨瑠璃 [illegible]

有樂館

[illegible]

大正館

慘!慘!

京阪間大洪水の慘狀

◎九時半より差加へ映寫

大正館

櫻井町 電話八七三 十月五日より久々特別大提供 [illegible]

黄金館

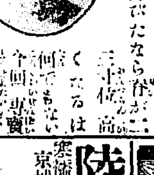
電話二六六 三六七 黄金館 [illegible]

本町五丁目 稻荷座

新派喜劇改正美團一行 [illegible]

小男も大男となる

人間の脊が器械で伸びる [illegible]



[illegible]

中風病

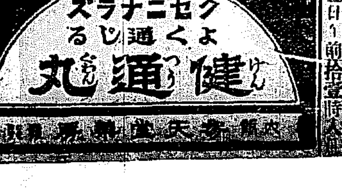
余が家は祖父及び父と母の三人も同病にて困難したる遺傳系統にして其悲しき實驗より得たる良藥を[illegible] 兵庫縣明石鍛冶屋町加古忠兵衛

櫻谷質舖

高價御預り可申候 京城北米倉町[illegible] 前小路 電話三八六番

公告

一東大門外三八個所畓[illegible]右來ル拾月拾五日前拾壹時入札[illegible] 京城府



陸軍拂下

官衙下品 佐藤古着店

黄金館の

新派大悲劇 荒波 全三幕

西泰 大活劇 空中王

舊劇 牛若丸

内地大水害の爲め遲延致居候處漸く昨日到着引續き上場中に付御見落しなく御連での程伏て願ひ候其他

京城府公告

拂下取消公告 一觀水洞土地建物拂下ヲ取消ス 京城府

マーゲン

強胃消化錠 特約店 京城南大門通二 新井藥房 大阪上本町石田信保藥房

謹告

三女ヨシ子病氣の處藥石無効十月九日午前五時死去候間此段謹告仕候

追て來十一日午後四時自宅出棺相營中妙心寺に於て葬儀相營候

父 瀧元次郎

親戚總代 山縣善槌 淺枝信太郎

友人總代 齋藤金祐 福田義雄 久松喬 花水猛

謹告

荊妻嘉技儀豫て病氣の處本日午前四時二十五分永眠致候間此段謹告候也

追て葬儀は十一日午後三時於米倉町營み中候

大正六年十月九日 京城古市町七番地

北原利男

親戚 北村敬介 織加一

友人 森居重作 松本雅太郎

京城日報
第三版
十日朝刊（朝夕刊併せて六頁）
本紙定價　△一ヶ月金五十五錢△一ヶ月金二十五錢（郵税）
廣告料金　△七字詰一行金八十錢△四號活字…
發行兼編輯人　奧山直介
印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通一丁目　京城日報社　電話番號（編輯）…（營業）…　振替貯金口座京城三〇〇番

支那漫遊

安奉線

蘇峯生

予は三十九年に乘りたる玩具鐵道の[illegible]安奉線に乘り、轉た今昔の感なき能はず。當時は種々の危險と、面倒とに加へて、二日にして、漸く奉天に達せり。今は僅かに半日餘のみ。然も慾を云へば、滿鐵は寧ろ此の裏街道を、餘りに輕視したるにあらざるなき乎。食堂其他一切の設備、及び乘客の取扱に於て、聊か京釜線に劣るものに似たり。今や鮮鐵又た滿鐵の支配下となる。此際須らく刷新を要す可し。從來大連本位の滿鐵に於ては、裏街道たるも、若し奉天本位とせば、表街道と云ふも不可なし。風光は山腹、山巓を蛇行したる舊線の方、寧ろ悅ぶ可し。然も今や秋色滿洲に滿つ。北上するに從ひ秋色漸く深し。高粱は半ば收穫せられ、山葡萄や、蔦は錦を染め、野菊の淺紫、深黃なる、楊柳の葉は未だ翠色を帶びたる、楢や、柞葉の疎黃なる、滿畔の光澤、身は既に滿洲の秋の、一要素となりたるの感あり。

本溪湖に至れば、巨大なる溶鑛爐の燃突天を摩するあり。即今五萬噸の鐵を製し、明年に至らば、更らに五萬噸を加ふ可しと云ふ。而して其の採炭の業、又た甚だ熾ん也。大倉翁の男爵たるも、此に於て聊か光輝ありとは、同車中の諸客の相ひ語る所にて有之候。斯くて旭日よりも倘鮮美なる落日の、渺茫たる滿洲平野に沒するを眺め、奉天に著したるは午後六時半、東京時間にては七時半也。何となれば安東縣にて、一時間繰り上げたれば也。

大正六年九月廿六日午前六時、奉天大和ホテルの樓上より、新式の馬車鐵道の、市街を往來するを眺めつゝ。

世界の實勢と國民の覺醒（六）

（於朝鮮教育研究會主催講演會）

文學博士 建部遯吾氏講演

然るに世界主義、人道主義、文化主義たるや彼の所謂個人主義と手を握るに極めて好都合なる主義である。日本抔と小さな事を言はず何事も世界を本位とすると言ふのは、如何にも大きい樣に聞ゆる。所が此の大きい樣な世界主義が不思議にも最も小さな個人主義と相提携する。個人主義は名を世界主義文化主義人道主義に借りるのである。國を本位とする經綸其一端たる施政に反對する新なる口實を之より借來るのである。併乍ら之は思想生活の一面に於ては實勢上甚だ下火に成りつゝある主義で之と反對に歐洲の各國に於て今後益盛んならんとするの傾向有るは、新たに文字の製作までも考出した前述ぶる社會本位主義である。斯の如く今日世界の實勢として認む可きは、思想方面に關する中心運動は實理主義であつて、而して實際的方面に於ては社會本位主義であると云ふ事を僭越乍ら茲に紹介して置くのである。

以上述ぶる世界の實勢が、人間生活其のものに如何なる事實として表はれ來るかと云ふ事を、第二段に最も重なる事柄として述べねばならぬ。一言以て之を蔽へば、此の實勢が實際生活上に表はれ來るは、國際競爭である。要するに國際競爭が世界に於ける實際生活の方面に實勢として表はれ來つて居ると御紹介する外は無いのである。熱々國際競爭なる今日の如き實際狀態を呈し來れる由來を繹ぬれば、其の來るや隨分遠い、併し稍手近かな事を申せば、歐羅巴に於て、前來述べた人間思想の三段階即ち第一期の宗教的神學的時代第二期の哲學的時代の形而上時代而して第三期たる形而下の科學的實利的時代の間哲學的時代に在りては彼の敎法改革運動が勃興し次いで茲に小規模乍ら社會本位主義が實現されたのは、要するに歐洲に於ける學問の勃興に原因を發して居る。學問の勃興是れ實に世界各國に對し有形無形に多大の影響を及ほし來つたのである。此の點に於て佛蘭西は從來の小國を統一し次いで英吉利、伊太利、獨逸等歐洲の各國に於て幾らか早く若くは後く茲に近代の國民社會が建設された。佛蘭西は此の點に於て一日の長があつたのであるが、思想發達の方面に於ても亦佛蘭西は一日の長があつたのである。即ち先づ佛蘭西に於て、科學及び其の應用の勃興が著しき現象として表はれ來つた。而して科學及び其應用の盛んになつた結果は第一に交通の發達を促したのである。第二に經濟思想の發達即ち一般衣食住方面の發達を促し、第三に、是等陽氣にして且つ幸福なる方面に引替へ、甚だ陰氣にして破壞的な、慘憺たる戰爭の發達を促すに至つたのである。交通、經濟及び戰爭の發達となると云ふ點迄申述べれば茲に於て國と國との間に於ける國際競爭は必ずや激烈とならざるを得ないと云ふ事は自ら了解される。斯の如く國際競爭の激進となる結果、或は現實に戰爭を爲る、或は戰爭の準備をする。即ち武裝的平和が勢ひ盛んならざるを得ざるに立到つた。而して之が最も大規模に破裂したのが這回の歐洲戰爭である。

不肖私の研究に依れば十九世紀の一百年間を通じて歐洲諸國が戰爭の爲めに斃れた人間の數は大約九百萬人を算する。即ち歐洲全人口の百分の零、二六の犧牲を拂つて居るのである。併し之は戰爭で見らるゝものに就いての統計であるから多少の算盤を要するのであつて、此の計算は極めて精密だとは申されないから、或は若干の差違を伴ふものがあるかも知れない。十九世紀には戰爭は隨分あつたのであるが、今回の戰爭の如く慘憺たるものでは無かつたと云ふべきである。國際競爭は積極的に戰爭となり、而して他の一面に於ては種々なる問題を生で居るのである。國際競爭の生む半面の問題は所謂社會諸問題の中に包含さるゝのであるが、其の主なるものは第一に人口問題第二に人種問題第三に植民問題第四に平和問題即ち之れである。社會問題は何れも各若干の連系が有るけれども、國際競爭より生ずる症候として擧ぐれば、以上の四問題は所謂直接症候であり、尚ほ間接症候として擧ぐ可きは第五に婦人問題あり、第六に勞働問題あり、第七に宗教問題あり、第八に階級問題あり、第九に革命問題がある。而して間接の最も間接なるものとして第十に思想問題がある。即ち間接症候は今姑く之を措き直接症候に就いて一二說明を加へて見やう。

讀中外新論

此經 愛州

昔は文備田釣魚の圖に題して志不在魚と言へり。今韶南子の新誌を創刊するは蓋し其志は單に雜誌の經營にあらずして已に自ら明確に題して文章報國をいふ。[illegible]

誰（90）

布施生譯

一週間も經たぬうちに敦敏は其船が普通の船ではなく法網を潜つて密貿易を行つてゐる者の所有船である事が分つた。時には掠奪や奴隷賣買をさへする事もある。道理で乘組と云ふのは皆、敦敏同樣何か曰くがあつて廣い世間を狹く渡ると云ふ厄介な人間ばかりであつた、敦敏は其船に居るのを苦々しく思つた、しかし自分一人がいくら口を酸ばくして諫めやうとも到底肯かれる目途はない、是非なく憤を胸に疊みながら默つて自分の仕事をしてゐる外はなかつた、夜毎の夢は漸う苦しかつた。

三月經たぬ中に敦敏の技倆は段々仲間に認められた、勿論敦敏程學問のある者は此船中に一人も無かつた、中にも船長は甚く敦敏を信用して今は一刻も傍を離さず、學問上の事で彼に步を讓るは勿論其他の事も萬事彼と相談した、其内一等士官が不意の事で死ると船長は直に彼を引上て其後任とした、

かう云ふ風で三年の間に敦敏は二度世界を一周した、そして三年目の終に南米のブラヂルで上陸した時は彼れ利益の分配を受けた四千圓と云ふ金を懷にしてゐた、しかし四千圓ではまだ中々敦敏に約束した豪富と云ふ身分ではない、けれども彼の良心は少しも金が出來ると最早此樣な不正なことをする事に堪へられなくなつた、彼は強いて暇を貰つて船を降りた、新らしく何か商賣を初めるに先つて暫く此地に滯在した、そしてやゝ落着いた氣持で故郷へ手紙を書いて[illegible]書に一向返事が無いので詰つた、返事は翌年の終になつて漸く著いたがそれを讀んだ敦敏は落膽した、それには父の亡くなつた事、弟が行衞不明になつた事、それから[illegible]が嫁に往つてしまつた事、それに敦敏自身は殺人罪で懲役何年かの缺席裁判になつてゐる事が書いてあつた。

あゝ自分は世界に一人になつてしまつた、家族もなければ國もない、嗚呼、何もかも金の所爲だ、[illegible]さへあれば惡事も惡事でなくて濟むんだ、そう言つて敦敏は一心不亂に金儲に苦心した、當時ブラジルで良いと云ふ有りとあらゆる事業に手を出して、初は煙草で投機をやつた、次で[illegible]五度目には[illegible]彼は大富家にな[illegible]かけて五度[illegible]を耗つてしまつた、[illegible]に試みた土地の投機買が運よく當つて敦敏は二十何年振かに初めて何百萬と云ふ財產の持主になつた、加之に何萬町步と云ふ廣大な土地を所有する身になつた、彼は從故郷に希望はなかつた、父も居ない淋しい故鄕に何の望があらう、彼はもう一生をブラヂルで暮して決して故鄕へ還るまいと思定めてゐた、しかし結局それは心の底に潛む望鄕の念を除外した決心であつた、齡をとるに從つて故鄕が戀しく敦敏は窃に手を廻して故鄕の樣子を探つてみた、幸ひ自分の罪も今はもう時効にかゝつて消ねてゐる、今迄つても最早官に追廻される虞はない、彼は俄に還る事に思定めてブラヂルでの事業を確實な管理人に預け船に乘つて佛國へ向つた

○雜誌抄

◇高麗紙△（書物展望雜誌）

[illegible]

△保合小堅し

[illegible]

鑛業講習録
東京神田區仲猿樂町
大日本通信鑛山學校

三大宗教
佛教綱要　島地默雷先生
基督教綱要　廣井辰太郎先生
神道綱要　足立栗園先生
大阪 丙午出版社

新東洋
THE NEW EAST
十月號
新東洋社

朝鮮諸官廳受驗必讀 法律講義
京城高等普通學校教諭阪上綱吉先生著・價八十錢特七十五錢税六錢
賣捌所 京城日報代理部

京城名物 栗饅頭
京城南山町 橘屋菓子舖

近藤先生序・青龍道人序・村田何休先生著
禪心生活
新刊 日東社

六千圓　四千圓
特種月賦
大阪天神橋南詰 朝日債券株式會社

出張開店豫告
冬衣御仕度の季節と相成り申候に付本年流行の新柄呉服木綿物並に寄せ裂れ見切反物等種々取揃え持參
來る十月中旬
平壤及鎭南浦の兩地に於て
出張開店仕り候豫定に御座候間何卒多少に不拘御用仰付られ度豫め御願申上候
追て開店時日、場所決定次第更に御案内申上候
京城本町 三越呉服店

菱印
窓硝子
三等品 舶來品ニ比シ一層優良ニテ御邸宅用ハ此品ニ限リマス
四等品 通常舶來ト稱ヘ普通ノ用途ニハ至極適當ノ品デアリマス
本社 旭硝子株式會社
工場 第一工場 尼崎　第二工場 戶畑　第三工場 鶴見　第四工場 牧山

竹内式自然落下唐箕
特許出願
黑鉛用唐箕、精米用唐箕、鑛山用篩、精粉用篩、萬金網、鑛山用具類
▲鑛業家の福音▼
近時、朝鮮に於ける鑛業は、内地資本家の投資の激増と共に、長足の進歩をなしつゝあるが、此時に際し、各鑛業家の使用しつゝある唐箕は、普通精米用のものを以て之れに充て何等特殊の改良せられたるものなき狀態なるを觀て、弊工場は此不備不完を補ふべく日夜此れが研鑽に腐心したる結果、茲に竹内式自然落下唐箕を考案し目下之れが特許を出願中なり。從來使用し來りたる唐箕は、廻轉及落下加減共、兩手を以てしたる爲め加減を過ち加ふるに落下量と廻轉程度の平均を失し落下したる者を再度唐箕に掛けざるを得ず、此れが爲め時間と勞力の損害尠少ならざるを今回弊工場考案の唐箕は、別圖の如く廻轉と同時に自然的に落下して、從來の如く兩手を使用するの不便なく勞力時間共に節約し得べき理想的のものなるを以て業家諸君の御用を以て御需要に應ず
唐箕と略同價格を以て望むや切なり代價も從來の精米用
御好に應じ從來唐箕にも取付可致候
製造販賣 京城府北米倉町（電話長二七〇三番）京屋商店

○南北兩軍の配備

湖南に於ける南北兩軍の配備は南軍は永州卽ち零陵に劉建藩氏の部下十七營及び陸榮廷氏の率うる廣西軍混成一旅、衡州の湖南第一師第四團、寶慶の湖南第一師第三團及び鎮守使隊二營、衡山の湖南第一師一旅及び廣西軍約五日にして之れに對し北軍は湘潭の第八師第十五旅及び第二十師第三十九旅、常德の第二十師第七十九團、零陵の廣西軍混成一旅、岳州の第八師第十六旅及び第二十師第二十八團(是等の部隊は湖北第二師第三旅の岳州到着次第長沙に移る筈)寶慶の湖南第二師第四旅及び鎮守使第二營、常德の湖南第二師第六團、辰州の湖南第二師第五團なり而して湖南第二師、第三、四二個旅團は南軍に應ぜんとする形勢あり(北京特電)

○劉存厚氏憤慨す

劉存厚氏が政府の態度に憤慨したる内情は劉氏が代表者を入京せしめ段派の者に對し運動の結果周道剛氏より陸榮廷氏の復職を上申せしめ同時に劉氏を復職する内約あり周道剛氏より上申し來りたるも梁啓超、湯化龍氏等は猛烈に反對し流石の段祺瑞氏も劉氏復職を決行し得ざるに由れり(北京特電)

○南北妥協成立か

段祺瑞氏は八日緊急臨時閣議を開き陸榮廷氏との妥協案を附議せり未だ其詳細を知る能はざるも此事たる馮國璋氏の勸告に依るもの、如く實際に於て政府の讓歩にして南北妥協成立の見込みありとの說高し(北京特電)

○トルキスタンに戒嚴令を

露國革命後各州に掠奪行はれ一揆絶えざる有樣なるが土耳其斯坦にても過日糧食問題の爲め一揆起り獨立を宣したるを以て政府は哥薩克兵に對し之が討伐を命じたるに哥薩克兵は警察の任務に當るを欲せずとて命令を拒絶せるより四日遂に政府は同地に戒嚴令を布きたり芬蘭地方も不日獨立共和の宣言を布告すべしと(露都電報)

○露國鐵道賃金引上說

全露鐵道同盟罷業は露國政府の讓歩に依り終に中止となれるが此の讓歩の結果政府は鐵道從業員の給料を引上ぐべく其結果として當分の間貨客賃金の引上げを行ふ方針なるが如し(露都電報)

○獨逸回答案協議

羅馬法王の講和提議に對する獨逸の回答に關し和蘭よりの報道に依れば該回答立案の爲め獨逸宰相を議長とし帝國議會及聯邦參議院より約七名の委員を出し之と相談會を開き協議を爲せしが其間宰相は親しく狀況を視察すべく白耳義に赴けり而して宰相は講和の期遠からざるべきを公言せりと傳へらる(倫敦電報)

○支那兵器讓受け交渉

我政府は支那政府より兵器購入に關する交渉を受けたるが我政府は種々考量の結果支那政府より直接購入希望の申込あらば之れに應ずるも差支へなかるべしといふに決し我北京公使館附武官齋藤少將と支那政府との間に該問題に就き協議中なるが其數量價額等は未だ具體的に決定するに至らず愈々讓渡するに至らば代價は借款の形式に依り授受することゝ成るべし(東京特電)

○大臣以下義捐
各府縣の罹災民へ

各府縣の暴風被害に對し各大臣以下中央各官廳高等官全部は各俸給百分の一以上を醵出し東京府及び神奈川、千葉、茨木三縣の罹災民救助費中に寄附すべく九日の閣議にて申合せを爲したり(東京特電)

○銀塊相場低落

倫敦銀塊相場は四十五片四分の三に低落したり(大阪特電)

○軍司令官動靜

松川軍司令官は九日宮島丸にて清津着一泊の上十日羅南へ向け出發す(清津特電)

○警察部長會議

全國警察部長會議は九日午前八時より内務省會議室にて開會後藤内相の訓示あり了りて協議に移れり(東京特電)

○慶南獻穀納入

朝鮮より本年の新嘗祭に供御すべき獻穀米は九日午前龍頭山神社に於て莊嚴なる修祓式を執行したる上耕作者釜山鎮佐谷諭太郎氏之を捧持し慶南道廳より石井技師、[illegible]

府廳より齋藤屬附添ひ警官護衛の下に九日午後十一時發列車にて總督府へ納入すべく出發せり(釜山特電)

○元山部隊淸津着

機動演習に參加すべき元山部隊は九日淸津に來着せり(淸津特電)

●湖南の問題(一)
民間側の希望と鐵道當局
和田管理課長談

過般湖南線方面に出張せし和田鐵道局監理課長の歸來談に曰く、今回の出張は一週間許りだつたが地方に行くと何時も色々の要求が出る、希望の多いといふ事は或一面に於て向上進歩を意味するものであるから至極結構な次第である、其中には隨分途方も無い註文があるが然しまた相當理由の存するものも決して尠くはない。却說今度の要求中には湖南線列車の速力を増加せしめ度いといふのが多かつた何にしろ大田から木浦までの距離に十七時間を費すのであるから自分が乘つて見ても其の間鈍さには閉口せざるを得ぬ此の線が何故斯樣に遲いかといふと夫れは開通を急いだ結果假工事で以て竣成せしめた爲めであつて、橋梁なども總て假橋だから速力を速めようとしても速めることが出來ぬ。然し現に施行中の工事が完成すれば多少は早くすることが出來るであらう。また此の列車は停車時間が馬鹿に長い現今の湖南線は混合列車になつてゐる爲め荷物の積卸しに時間が取れるので旅客に取つては

▲至極の迷惑 であるから出來ることなら旅客專門の列車を運轉し度いのであるが、今の樣に二等一輛三等一輛合計タッタ二輛の客車が而かもガラ空きの狀況では單獨に馳らせることは如何にも勿體ない感がする、旅客列車を出すことゝなれば差し詰め年々二十萬や其處等の金は餘分に掛かる。然るに湖南線の運輸成績は頗る不良で鐵道では何時も損をしてゐる仕末である、此の線も早く旅客列車位は出せる樣に成り度いものと思ふ。又群山の引込線も問題になつてゐて現に驛から川岸迄は一哩許りの引込線があるが今少し

▲川岸を埋立 てゝ之を稅關の棧橋邊まで延して貰ひ度いといふ註文である左樣になれば荷役の爲めには非常に好都合であるから鐵道でも希望に應じ度いのであるが此れには色々の故障があつて實行は却々困難である、殊に川岸の埋立をすると潮流の關係上棧橋附近が埋まつて來て夫れが遂に用を爲さぬ樣になつて仕舞ふだらうといふ。斯くては折角引込線を延長しても何にもならぬ、其の他場所が狹いとか色々の難儀はあるが、若し此の點さへ解決を見るならば築港計畫の確定する迄、其の間の凌ぎとして引込線を延長するも惡くはあるまいと思ふけれども今の處では如何も六ケ敷さうである

●水害地損耗高

八月中旬及び九月初旬の降雨に於ける鮮内水害の狀況は本紙既記の如くなるが其の後總督府に達せる報告に依れば慶尚南道にては八月十一日の降雨に依り居昌郡一圓、咸陽郡内西上西下、水東、池谷、安義、大知の各面、陜川郡鳳山、妙山、冶爐、栗谷、大陽、大閑、伽倻、双州、古德、德谷各面、河東郡德陽、赤良、古田、南面の各面に出水稻、大豆、粟等の農作物に十三萬二千八百餘圓の被害ありしが爾後極力排水に努め回復の望なき地に對しては蕎麥、秋蔬菜等を作付せしめたり、又京畿道管内にては九月三日より五日の間に於て金浦郡内面、陽東面、驪州郡河内面、興川面、坡州郡月籠面、臨津面、街道面の各地に出水あり水稻、陸稻、大豆其の他の農作物を通じ約七千三百餘圓の被害を蒙れるが其地とも間も無く退水せり

觀瀾亭雜俎
蘇峰生

○日本の歷史は、日本國民として、此の本領を、自覺せしむる所以也。外國語は、智識を世界に求むるの方便を、自得せしむる所以也。既に此の兩者あらば、此上は銘々の知慧、才覺、分別、思慮の如何によりて、如何樣にも之を使用し、之を應用し、之を適用するを得可き也。○日本歷史に就ては、姑らく措き。外國語の教授に就ては、今尙ほ甚だ不徹底なるもの多きは何ぞや。均しく外國語と稱するも、讀む、話す、書くの三者あり。今日我國に於て、最も流行するは、英語にして、其次は獨逸語なる可し。されど此の兩國語に就て、所謂る專門の學者は、別問題として。一般の學習者に就て見よ。讀み、話し、書くの三件具備したる者、果して學習者の幾割ある可き乎。此の中の一件に就てさへも、實用に供し得る者は、幾許もなかる可し。乃ち英語を學習したりと稱する百人中、英語の新聞、雜誌にても、差支なく讀むを得る者は、恐らくは極めて少數ならむ。果して然らば、其名は學習と稱するも、其實は學習せざると、選ぶ所なきにあらずや。○吾人は外國語の學習をして、今少しく實用的ならしむるの、手段はなき乎と思ふ也。多年の精力を消磨して、唯だ書物を逆に披かず、羅馬字綴の邦語を、諳みこなす位にては、頗る精力不經濟と云ふ可き也。

●製糖工場準備

岡村朝鮮製糖會社重役は社員大杉鑑二氏を隨へ七日平壤に著八日より大和町假事務所に於て工場設立の準備に着手したり(平壤)

●利川農事視察團入京

京畿道利川郡農事視察團一行七名は九日午前八時五十分南大門驛着列車にて水原より入京午前十時京畿道廳に於て松永道長官及[illegible]より一場の訓話を聞き夫より總督府、昌德宮動植物園、中央試驗場等の參觀を爲せり明十日は朝鮮銀行、京城郵便局等を參觀せり

●山田大連通信員

本社大連通信員たりし山田武吉氏は今回本社大連支局新設と共に本社々友として從來の如く執筆すべし

人事消息

▲林奈輔博士(東京高等師範學校教授) 九日夜入京京城ホテルへ

▲赤木京城中學校長 十日朝入京の筈

▲淺田賢介氏(公州地方法院長) ▲服部常之助氏(同檢事正) ▲[illegible](同監督書記) 十日朝入京の筈

▲堤常三氏(朝鮮銀行理事) 釜山出張中の處九日夜歸京不知火へ

▲樋口虎三氏(新田帝國製麻取締役) 同上

▲明石照男氏(第一銀行員、青木莊[illegible]氏同上) ▲川知一氏 同上

▲[illegible] 九日夜入京[illegible]

▲[illegible]

●朝郵決算良好

朝鮮郵船會社の大正六年度上半期決算は此程出來せしを以て川田文書課長携帶原田社長の省閲承認を受くる爲め此程東上したるが其の内容は未だ詳らかに知り得ざるも要するに内地海運界殷盛の影響を受けしと貨客の運賃を引上げしとに依り一般世界の好景氣なるとは相俟つて相當の成績を舉げ其の純益は之れを前期に比する若干良好にて十八萬圓乃至二十萬圓を舉げ居れりと

●貨車留置違約金改正

朝鮮鐵道線に於ける貨車留置料及び違約金は從來十二時間每の計算なりしも本月十一日より六時間每の計算となり貨車標記重量噸數一噸に付き二十五錢の割合に改正せられたり

●府吏員增給

京城府にては昨今月俸四十圓未滿のものに對し臨時増俸を爲すべく内地人は月額二圓、鮮人は一圓五十錢宛を增額し日給者に在りては内地人六錢鮮人五錢五厘宛の日額を增給すべき議あり目下其筋に申請中なれば近々中に確定を見るに至るべしと

●前田大佐講演會

十一日午前八時憲兵隊司令部將校集會所に於て警務總監部高等警察課長前田憲兵大佐の咸南巡閲に就ての講演ある由

●鹽澤部長巡視

鹽澤京畿道警務部長は神崎警視外警部三名を隨へ九日午後一時より京城府内本町警察署管内御成座、南大門市場、浪花館、有樂館、南山町消防所、壽館、壽座、大正館、演技館、黄金館、稻荷座、黄金町消防所等の各興行場、市場、消防所等を巡視す

●宗演師大連著

釋宗演老師は京漢津浦線道洪水にて不通の爲め順路の豫定を變更し六日午後三時半天津より大連に入港したる旨東所に通知ありたり

●朝郵重役會議

朝鮮郵船會社にては來る十五日重役會を開き大正六年度上半期決算を附議する由なるが東上中の原田社長は

百聞百種

リープクネヒトと云へば名からして妙に聞ゐる其の通り却々普通の男ではない▲殊に獨逸に取つては實際持て餘し者である▲獨逸が獨逸國民を持て餘すと云へば之れも妙に聞ゐるが▲同人は獨逸政府が最も恐れる獨逸社會黨の領袖であつて▲昨年五月祭に群衆に向つて演說し當局の忌諱に觸れて三箇年の禁錮に處せられた▲所が可哀想に肺病で骨と皮ばかりになつて打ち遣つて置くと牢死する▲其處で最早出獄を許したさうだ▲之れが事實とすれば彼れの餘命も永い事はあるまい▲獨逸政府は先づ斯うやつて彼れを葬ることに大方成功はしたが社會主義を葬ることは出來ないと見えて▲其の取締は却々嚴重で十八歲の青年がブレーメンで討論倶樂部を組織し政治を論じたと云ふ廉で十日の拘留に處した▲之が獨逸となつて丁年未滿の者は社會主義を論ずべからずと云ふ法律を制定した▲最う社會主義の大びらで論ずるのは露西亞許りになるのだらう

謹告

新田新太郎

右者今回本社安東縣支局長として赴任仕候に付き謹告候也

十月十日

京城日報社

●鮮銀店長會議

十三日より奉天に於て滿洲支店長會議開催さるゝ事となれるが出席各支店長は如左

△安東支店長[illegible] △大連支店長[illegible] [illegible]

[illegible]合により不參なりと

●元山高議役員會

元山[illegible]

●從軍武官北行

從軍騎兵大尉森五六、同步兵大尉久納誠一兩氏は滿蒙戰線に從軍を命ぜら[illegible]

[illegible]滿洲製麻會社創立され專ら滿洲麻の需要激增し最近に於ける滿洲麻の輸出は旺盛を極めつゝあるが麻の加工品製作を目的とせるが[illegible]麻の價格最近の如く騰貴し來り[illegible]

●硫酸爆發

大阪府西成郡鷺洲町[illegible]東亞化學工業株式會社[illegible]

[illegible]元山商業會議所に於て講演を爲し十日午前九時四十五分元山發列車にて京城[illegible]の豫定

八日午後十時五十分釜山入港せる[illegible]一二等客[illegible]

醫界の信認最も高き
新滋養劑レグモン

◎肺結核◎胃腸病
◎熱性病◎神經衰弱
◎其一般病中病後の衰弱◎乳汁不足の婦人
は直ちにレグモンを服用せられよ!

◇レグモンは日本人の体質に最も適合する植物性蛋白質を基本としたる國産滋養劑にして
◇京都醫科大學教授森島博士より有効滋養劑として推獎せられ又山ドクトル林恒次、吉澤の四醫學士は多數の衰弱したる患者に用ひて甚だ有効なる滋養劑たるを實證せられたるものなり

【容器】百瓦入 金壹圓貳拾錢 二百瓦入 金貳圓拾錢 四百五拾瓦入 金四圓五拾錢

一手販賣元 大阪市東區道修町 武田長兵衛

全國知名藥舖に販賣す 說明書無代進呈

朝鮮彙報

朝鮮彙報 大正六年十月號 (定價貳拾五錢 郵稅貳錢五厘)

目次

■口繪 全南金堤郡大渚水利組合貯水地。朝鮮總督府水産調査船鶴丸。全州金山寺七重塔

○朝鮮彙報の改良
○米穀檢査規則の改正及大豆檢査規則の制定に就て……小原農商工部長官
○朝鮮に於ける基督教……宇佐美内務部長官
○最近の法律思潮……牧野法學博士
○發電水力調査(完)……遞信局

調査及研究 ○執務能率の增進(高武事務官) ○答刑に就て(司法部監獄課) ○朝鮮農家に適應すべき水石拔器考案(工業專門學校助教授) ○手紡麻苧絲の漂白試驗成績(工業專門學校助教授) ○大阪對朝鮮貿易 ○京城並光陵林業試驗地の寒害 ○麻疹の減退 ○濟生院事業概況(完) ○朝鮮の便診に就て(山本篇)

地方事情 ○面吏員並篤行者表彰 ○江西郡の造林事業…

雜錄 ○畜牛同業組合經理狀況…江原道 ○朝鮮鐵道穀類特定運賃の改正 ○家蠶繭の輸出 ○秋蠶豫想 ○第七回記念植樹狀況 ○内地行朝鮮人勞働者の概況

統計 大正五年十二月末耕地面積 ○道管區表 ○法令及通牒 ○判決例

朝鮮彙報地方號

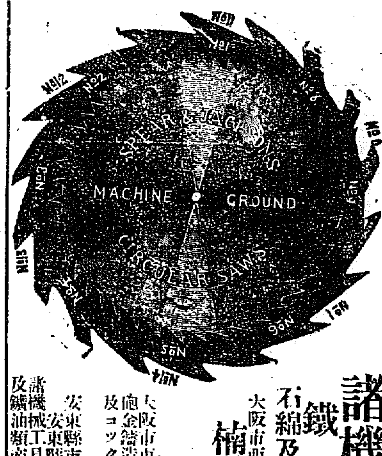
毎月一回十五日發行 定價十二錢

□口繪 長谷川總督と山縣政務總監 臨時恩賜金事業京畿道授産所

○發刊の辭 ○面制の特徵…宇佐美内務部長官 ○面制解說 ○臨時恩賜事業の梗概 ○内地に於ける農村振作の要項 ○内地と朝鮮との公課の比較 ○國語研究 ○質疑回答 ○内地に於ける自作と小作 ○産業組合 ○例規其他

▲販賣店 京城本町 大阪屋號書店 電話六八四・二〇八六 振替京城二五七三番

製材用 丸鋸 竪鋸 帶鋸



諸機械工具類 鐵工用鑢 石綿及ゴム製パッキング

楠田竹治郎商店 大阪市西區本田三番町七十八、九番地 電話 長西一七九五番 西二二四五番 振替口座大阪一〇五五一番

砲金鑄造ミバルブ及コック專門製作 安東縣市場通四丁目 電話南六七三一番 同工場

安東縣一手販賣 諸機械工具及鑛油類商 河野定男商店

京城本町二丁目 電話二九一八 振替京城二三一 川合時計店

運轉安樂精白迅速 信用ある長期月賦 貸附 [illegible]

精米麥機 カベ

詳細圖入說明書は申込次第送呈 製造元大阪西區市岡町東[illegible]

京日案内

普通

●注文取一名至急採用 希望者は即時左記へ來談あれ 黄金町三ノ三二三 博英社印刷所 807

古本買受申候 本町一丁目(明治町角) 野村書店 電話三〇五〇番 658

番外

藥種商店讓る 本町[illegible]丁目 御望の方は黄金町四丁目櫻井町角 696

西依藥房へ御來談あれ

職生募集 製法簡易 新案技術ゴム品製造 [illegible] 662

女子募集 十四歲より廿五六歲迄 尋常小學校卒業程度の者 龍山 總督府印刷所 680

高等工業冶金科出身在鮮金鑛四十歲迄強健者[illegible] 城大和町一 北鮮鑛業所出張店 693

新古ミシン賣買 電話又はハガキにて御報次第參上 京城鍾路パゴダ公園近 電話二三三八 楠商店 556

年金恩給 低利五年半迄保險不要 即時立替 商品陳列館前下角 江州屋本店 680

礦物定量分析 太平町二丁目電話長二三五四 朝鮮公論社左横小路 坂元分析所 634

はねつぎ うちみ くじき 一切の治療御依頼に應ず 明治町 柔術道場 638

魔法瓶及魔法瓶中瓶取替 京城本町一丁目 電話一三四番 高木旅行用具店 666

恩給年金立替 五年半三年分迄無保險 利息電話三九一番 京城若草町 光教會裏手 國江商會 526

外務員招聘 希望者履歷書携帶來談あれ 本町二の一〇六 大正生命京城支部 689

恩給年金 長期低利現金即時 一替三年分迄無保險 京城南大門外(舊御成町) 電二六八八番 山口屋 671

（明治四十二年九月二十八日第三種郵便物認可）

[illegible]事之れに伴ふ同店業務の統一を[illegible]大連支店よりは大田理事も列席す[illegible]圖るの必要あるを以て來る十三日[illegible]る筈にて此外滿洲同行支店には間[illegible]より四日間に亘り奉天同支店に於て[illegible]島龍井村、哈爾賓出張所ある都[illegible]

[illegible]全票一致にて左の如く決定した 會頭 鮎谷愛介 ▲副會頭 木岡卯吉 ▲常務員 小田村欣助、杉野市、岩男百藏、康興植

◉漢江橋の開通が 龍山市民に與へる影響

◆同地の人々は何う想ふか◆

龍山の人が狂喜して開通を祝した漢江橋、已に一般の交通路となつて龍山名物の牛車はまだ夜の明けない内から往復してゐる、漢江橋の開通が直接龍山の市民に與へる影響はどんなものか、同地方の二三の人の意見を聽いてみる

▼將來龍山發展の爲めに

矢野龍山憲兵分隊長談

市中の商人連中はそれ〳〵いゝ影響を受ける者もあらうし惡い影響を享ける向きもあるだらうが過日の祝賀會の如きにも

◆莫大の金を出して祝意を表した位だから一般には漢江の架橋が將來に於ける龍山の發展を助成するといふ意味から喜んでゐる事は勿論である、吾々の方として管轄區域の上から言へば永登浦警察と

◆橋梁上の事は等分にやらねばならぬのであるが、私の方は警察行政のみでなく軍事警察も扱つてゐる關係から警務部長の意見で漢江橋の橋梁警察は龍山分隊で行る事になつた、それのみならず軍事警察

◆管下なる仁川永登浦を始め江華、金浦等に交通が非常に便利になつた事を痛切に感じてゐる、亦此の地方の雜貨類は從來でも龍山から行つてゐたのだが開橋と同時に尚ほ龍山に物資を仰ぐ事が多くなると思ふ

▼龍山が急に賑かに爲つた

龍山建築請負業 大和與次郎氏談

漢江橋が出來たゝめに今まで手控へてゐた龍山の商人は猛然として鷺梁津永登浦に斷り込んでゆくことであらう、已に最う龍山及び京城の雜貨店では

◆店員を派して鷺梁津若くは永登浦方面に註文を聽きに行つてゐる模様である、これのみならずこれまで江に隔てられて渡來を面倒なものと心得てゐた奥地の人も盛んに出てくるやうになる、すると隨がつて龍山も賑かになるわけだし

◆土地の値も出てくるだらうその他種々の點から見て今後に於ける龍山の發展伸暢の著しい事を知る事が出來る、此の際特に吾々の希望するところは大小橋の中間にある中之島の利用法であろ、その大部分は個人の所有になつてゐるが、同所に

◆工業を起すとすれば水利の便といひ運搬といひ總ての條件を具へてゐるものであると思ふ

◆恩賜の包紙

御救恤金を其儘に傳達す

今回東京府に御下賜相成りたる御救恤金は各府立女學校生徒をして恩賜の包紙に模したる包紙一萬個を作らしめ之れに包みて夫々罹災者に傳達することゝ成れり（東京特電）

◉大熊征伐

守備隊の應援

去る五日朝慶北尙州郡尙州邑內南門を距る八丁の農學校裏手の山に何れよりか大熊現はれ漸次に下り來りて農學校舍附近にて同校の小使を突き倒しそれより同校一年生金永鎮(三)を摑み倒して十數箇所に重輕傷を負せ續いて尙町里居住の崔福貝(二)を傷けたり此急報に接し憲兵分隊より分隊長以下總出となり又同地守備隊より千組守備隊長は木庭中尉以下四十餘名を應援せしめ農民及び農學生を勢子として農校裏手の山を包圍し熊狩りを行ひ美事仕止めたるが該熊は多分江原道の深山より迷ひ出で鳥嶺を越ゑて尙州に來りしものなるべく身長九尺重量四十餘貫の牝熊なりしと

◉大鯨捕獲

九日午後一時頃永興灣內元防備隊附近に長さ十二間餘の大鯨二頭浮游し來りしを折から入港中の捕鯨船東郷丸は直に準備を整へて之を追跡し一頭を捕獲したるも一頭は海外に逃出せしを以て目下追跡中（元山特電）

◉奸商四百

警察に引致さる

新警視廳令に基く奸商退治は愈々八日夜より着手され市中の食料品及び日用品小賣業者約四百名各所轄警察署に引致若くは召喚され取調べを受け居れり之が爲め幾分物價暴騰の傾向を輕減したり（東京特電）

◆本間氏歡迎謠曲會を聽いて

六日の夜京城ホテルの彌生俱樂部主催本間氏歡迎の謠曲演奏會を聽いて見た。丁度開口川の始まる處であつたが『男』と『ワキ』『その間』は取立てゝ云ふ程のこともなかりしが『ワキ』は全體に手弱く[illegible]の渡守りと聞き取つた『首や人の親の心は闇にあらねども』のサシは此謠會の[illegible]ゆゑ今少し靜に重く綺麗に押へて謠ふては如何と思はれた。然し『是は都北白川』の邊は前のサシに比し調子も低く[illegible]くさらりと聞ねたは嬉し『千里が行くも[illegible]』の地は今少ししめてほしかりし『武藏の國隅田川』の[illegible]下總の』の浮き押へは古風に謠はれたることも[illegible]確に聞ねたり[illegible]の狂ひ始めのかゝり[illegible]はれたる邊は確に大家なり『我も[illegible]』の地は運び、かゝり、押へ等の[illegible][illegible]

[illegible]『なうなう』の謠りは全體に[illegible]て軍き物語には確に[illegible]今一ト工夫と思はれたり。謠りの後の『なう船人』の『シテ』の評掛は如何にもよかりしが今の物語以下の掛合は『ワキ』は[illegible]『シテ』『ワキ』[illegible]『シテ』はせき込みてか[illegible]謠ふ[illegible]聽耳のためか『今までは[illegible]』以下の口說は哀傷の情[illegible]何にも嫁に向つてもの言ふ如く[illegible]に『此下にこそあらめや』と强みに[illegible]ひきりし緩急は是迄京城では[illegible]聞か[illegible]し後の稽古のものや入門後[illegible]の分のものに[illegible]

[illegible]

◉滿洲製麻前途

日本內地工業界の發達に伴ひ滿洲に[illegible]造產地に於ける百斤三四圓の上等品は本年は已に八九圓に取引さる[illegible]て染織等に適せざるものあれば同社の前途に及ぼす關係も容易ならざるが如しと（大連）

◉幣原博士講演

廣島高等師範學校長幣原文學博士は九日夜[illegible]

◉連絡船上陸客

八日朝九時釜山入港高麗丸二三等客一等（十三名）[illegible]

◉鮮人苦學生

進んで水害作業に

在東京の朝鮮苦學生十名は這回の水害に大く同情し其の勞力を五日間無代にて提供せんことを申出でたるを以て東京府當局にては快く之を聽許し水害善後作業に使用することゝ成れり（東京特電）

◉化學工場燃ゆ

農學士燒死

九日午後一時京都嵐山電車化學工場乾燥室より發火工場二棟を燒失鎭火したるが工場長農學士吉本富三郎氏燒死を遂げたり（大阪特電）

◉淨瑠璃界の耆宿

攝津大椽逝く

淨瑠璃の名人攝津大椽は斷妙の藝術を以て永年斯界に珍重され七十八歲を以て斯藝を隱退し爾來老婦と大擧つて獅子の別邸に閑居し餘生を樂しみ居たるが九日午前六時八十三歲を一期とし同邸にて病死せり（大阪特電）

▲銅像建設か

獅子の別邸に於て卒去したる攝津大椽の遺骸は九日夜大阪に送り近く盛大なる葬儀を行ふ筈なるが門人其他近親間には大椽の銅像を建設せんとの議あり（大阪特電）

◉龍山十九師團の消防小演習

八日午後三時より龍山第十九師團司令部に於て管下の各部隊より若干名宛を召集し京畿道警務部消防係より小熊警部以下出張して消防講話及び小演習をなせり

◉賊は元雇人

釜山辨天町宮原醫院元雇人黃龍石(二)は父黃聖律から教唆され院長宮原成吉氏の寢室に忍入り金三百十圓七十錢在中の手提金庫並に金十七圓九十錢在中の財布を窃取し大邱まで逃走したるを此程釜山署に引致取調べ中

◉何んな淨瑠璃が受けるか

豐竹古靱太夫談

豐竹古靱太夫、竹本錣太夫、野澤吉彌等の文樂一座は既報の如く九日午後七時三十分南大門驛着の列車にて入京したるが各師匠連を初め花柳界その他多數の出迎あり一行は驛前より

▼旗ご提灯にて華やかに裝ひし三十餘臺の俥を聯ね、本町通りを經て賑々しく巴城舘其他に分宿したが、其中古靱太夫は大阪淨瑠璃界の近況に就て語りて曰く『文樂座では最近新しい試みとして近松物を原本の儘にて二回上演しましたが世間から期待された程の好結果を得ませんでした是れは無論太夫の場馴れぬといふ點にもありませうが

▼原本の儘を持ち出して何れだけ一般の興味を惹くかといふ事は餘程研究を要する問題だらうと思ふ、未熟ながらもそれを語るは私共の立場としましても之れは疑問であります、要するに人口に膾炙したものは何遍語つても受けが好い、隨つて文樂座で上場する藝題なども出來るだけ分り易いものを選ぶ譯で同じ事を繰り返すに過ぎないのであります、是れは文樂座に限らず我々が

▼地方巡業をしますにも一般に分り易いものを語る方が受けが好いから同じ物を出す事になります、しかし將來果してこの調子で行くか何うかといふ事は無論斷言は出來ません』

◆文樂一座の乘込み（向つて右より靱太夫、錣太夫、古靱太夫、[illegible]）

◉時計十七個

京城蓬萊町三丁目金昌奭(二)は九月二十四日夜龍山青葉町二丁目金全謨方に忍び込み店頭の時計取交ぜ十七個價四十圓を窃取して入質したるに[illegible]

◉龍山消防點檢

龍山憲兵分隊管內にては十日午前は麻浦桃花洞の各消防組を麻浦普通學校に同日午後は龍山第一第二兩消防隊を龍山小學校に召集して矢野分隊長より小點檢をなすべし

◉怒濤の月と煙草の景品

三百名限り先着順

壽座に於いて上場中の本社連載小說『怒濤の月』は本紙愛讀優待券持參者に限り各等二十錢の割引を決行なし連夜多大の大入を呈しつゝあるが東亞煙草會社より十一日、十二日入場者先着順三百名に限りヘルメット一個宛贈呈なす由尙ほ同一座は每夜拍服絶倒の[illegible]を入替上演なし居れり

◉金時計を盜む

京城旭町一丁目加藤某の內縁の妻梅田みつ(二)は九月十五日夜其の附近の中村方にて金時計一個百四十八圓、衣類一點を詐取し本町署に檢擧さる

◉忘機吟社例會

忘機吟社例會は來る十三日(土曜)午後二時より大和町三丁目曹谿寺に於て開催の由

うわさの

[illegible]任以來地方道路の[illegible]め孔[illegible]よる道なく官[illegible]に[illegible]つ[illegible]を治むるに數ふるに足らぬ位であつたが▲道度水原から江原道巡廻の爲め自動車を驅つて四十數里の山野を突破して平昌に赴いたが途中原州平昌間の道路は新たに造られたばつかりで專馬も未だ通らねば自動車は勿論通つた事の無い道路だけに▲前司令官は危險を豫期して自動車を疾驅させて見た處が道路は新設道路で頑丈にして紙上を馳るが如く車上で沿道の風光を眺めたり晝食を喫したり山を越ゑ溪を渡り無事七時間の後に平昌に到着した▲此れが原州平昌間の自動車突破の新レコードであり且つ新設道路の通行始めで一擧に兩方の開通式を行つた樣な者であつたと▲軍司令官は屢當時の話を發して座談を賑はすが軍で參謀官等と集まつて愉快相に話してゐるのを傍から眺めて吾々は最早喰ふ時代から今は口で喰ひ眼で喰ふ時代だが君等は腹で喰ふ時代だから世の中が面白からうと言つたが▲其意は蓋し人間は始めは腹で喰ひ次は口で喰ひ眼で喰ふ事に趣味を覺へば道度は器で喰ふ樣になるのである相な

本紙連載小說 怒濤の月劇

優待券 一枚に付二人迄通用

壽座興行義士廼家劇合同團行連鎖劇の方に限り各等廿錢宛割引（怒濤の月上演中通用）

京城於壽座 京城日報社

園藝カタログ

▲無代進呈（郵税御申越あれ）

春の花園を飾り春の家庭を賑はす爲めに例によりて園藝カタログ秋季號を發行しました、花卉蔬菜の種子苗木一切を網羅し正確にして廉價に努力生育力旺盛なる者を撰擇して提供して居ます、全篇美麗なる插畫にて形を示し親切なる培養法も記して有ります、素人にも玄人にも必要缺くべからざるものです一刻も早く往復葉書にて御申越あれ直ちに發送します

東京京橋區日吉町 國民新聞勸業部

京城太平町二丁目 京城日報代理部

電話六六〇番・振替三〇〇番

京織道

詳細八拾月拾日總督府官報ニアリ 大正六年拾月八日

冬物賣出し

軍隊及鐵道局拂下品 既製品及中古洋服

茶褐外套毛布防寒シャツズボン手袋靴下入夫用古服類澤山あります

△詰襟折衿洋服オーバーコート婦人コート長マントピ大島袋小供マント類

○男女御衣裳・式

△持に上等御召の中古御婦人合羽澤山取揃へてあります

龍山元町一丁目電話百〇五番

衣服商 金子奥市商店 振替京城三八一三

たんせき 最近の良劑

セキドミン 醫學士宮田先生 藥學博士秋澤先生 合撰處方

たんせき 感冒良劑

水車唐箕 製造販賣 萬石篳笥

京城本町二丁目 電話三二六番 土井商店

[illegible]せき・夜中せき・頻りこ出づる咳・喉にぜり〳〵する時・流行感冒・たんせき・久しく慰迫しくたん[illegible]

藥價一日分十五錢 一週間分一圓 東京・大阪・京城各地賣藥店にあり

弘濟藥院

擴張御披露

京城南米倉町（元和樂園）

相生 敬白

電話九〇九番

禁煙パイプ 一滴一日五厘

ニコチンの中毒が知らぬ間に消へ[illegible]

一貫社

東京醫藥學會新發見液 朝鮮王李王殿下御買上

大阪屋號

露西亞に遊びて

最新刊

ヂゲスチン

胃腸最新藥

常用すれば血液を增し精力を盛んにす

合資會社 開城商店

東京本町 藥種問屋

花火は鍵屋

京城三坂通四十七番地 富田煙火製造所 電話二〇七二番

瀬戸醫院 外科 皮膚科

京城旭町二丁目（舊三丁目）電話二四九八番

醫學士 瀬戸潔

信用ある東京三金の靴

ボックス革製編上靴

三金高等靴店

健胃固腸丸

くだりはらの氣持よく止まる

食傷 寢冷 時候あたりから起る下痢と腹痛に第一等藥

本舖 大阪 谷田春堂

到る處の藥店に販賣せらる

戸川醫院

產婦人科 小兒科 內科

女醫 戸川醫院

陸海軍拂下品改造被服類

作業用 防寒用 狩獵用

京城北米倉町 村上商店 電話一二二番

電話開通廣告 百五十一番

仁川本町四丁目

朝鮮燐寸株式會社

ハンマーネクタイピン

京城本町二 村木時計舖金工部

櫻御殿

第卅七回 大阪 霞の家主人

關ヶ原合戰 (八)

雙方の軍勢が次第に接近する、敵味方で吹き鳴らす貝鉦の音が天地に渡り、殺氣が四方を掩ひ盡す、その朝は大層霧が深くて、殆んど咫尺を辨ずる事が爲きなかつた、小高い處へ上つて見ても、只一面の霧の海で、茫々たる間に、大杉や松の翠が黒く見え、その間に諸家の旗さし物が宛ら白帆の如く立つ、その爲でもあつたらう、戰爭は容易に始まらなかつた

松尾清之丞は足輕二十人の長として、陣の前を守つて居ると、今で云ふと七時頃、三十騎あまりの軍勢が、正則の陣所を突き破つて霧地に敵陣へ押し進まうとする、清之丞は氣色ばんで突と出て

『誰ぢや』と咎めた、その側に居た正則秘藏の家來にその人ありと知られた可兒才藏が斯くと見て

『何者ぢや〜〜』と續けて呼んで一言の殊怨あらば、立ちどころに切つて捨てようの氣勢を示す、清之丞は刀の柄に手をかけて

『今日の先陣は清洲侍從樣に定まつて居るを、誰なれば先を魁けるぞ、名を名乘れ、名を名乘れ』と責めた

井伊直政は事面倒と見て取つて二人の前へ進み出て

『これ〜〜、殊怨きつしやるな、わしぢや、兵部少輔ぢや、これにおらせたまふは下野守殿ぢや、これから敵勢を御覽なされうとある拔掛けを爲さるのではない、その證據は御人數を見たら分る、それ僅か二十人足らずぢや、懸念さつしやるな』

清之丞は忠吉が家康の實子であることも知つて居る、こゝで事を荒立てゝは善くあるまいと思ふので、いきり立つ才藏を抑へて通した

すると、敵の軍勢を觀察に行くといふのは僞りで、まことはやはり拔駈であつて、忠吉は捗々しい戰鬪の開けぬのをもどかしがつて直政と云ひ合せ、故意と小勢を引率して、正則の陣を横切り、何處でも關はぬ、手當り次第に最初の一撃を加へようと思ひ立つたのであつた

それで正則の陣を拔けると、三十餘人が一團となつて、宇喜多の本營へ突貫した、それが恰ど辰の刻(今の午前八時)、關ヶ原大會戰の序幕は、たつた三十餘人の太刀さきで開かれた

宇喜多の本營で、劍戟の聲が起る、ぱし〜〜と打ち出す鐵砲が耳を劈く

『仕舞ふた、やつぱり拔駈の先陣であつたぞ』と才藏は齒嚙みをする

清之丞は面目無い、うかと直政の詭に乘せられて、忠吉を通したのは、一生涯の落度であつた

『此のお詫は死んでする』

斯う覺悟する間もなく、正則の本營から傳令の武者が飛ぶ、全軍が振ひ立つ、八百人の鐵砲組が急に進んで、中山道の左手から宇喜多隊を射撃する

秀家は待ち設けて居たので、前隊と旗本とを五段に開いて、猛烈に應戰する、勝はまだ精れぬが、全軍に渡つて戰機が動く

忠吉の第一撃、つゞいて起る正則隊の鐵砲に促がされて、藤堂隊と京極隊とは聯合して大谷隊に打つてかゝり、寺澤(志摩守)隊も後れじとこれに續く、織田有樂齋、古田織部正を始め、猪子、佐久間、船越の諸隊は小西(攝津守)隊に向ひ、細川、加藤、金森(兵部少輔)黑田、竹中(半兵衛)の諸隊は、石田隊を攻撃する

斯ういよ〜諸方面の戰鬪が一時に開けて、霧の中に矢叫びの聲がする、鐵砲の音、劍戟の響、[illegible]の音、雷の音、魂の音、銃の音、それが混亂して山河を聾む

日報俳壇

天の川

坂を登る驕揺れて天の川 咲川

山に對す雨に流る銀河かな 同

罌界の浮くや天の川 同

艀船の浮揚作業や天の川 同

靜色斷つ師説く弟子や天の川 未刀

一ト雨は夜離れて天の川 同

野を流る水の涯なる天の川 同

唯銀河仰ぐのみなる艀飽きし 同

紹歌絶えし郭の空や天の川 要

天の川欄干にして屋根 洋二郎

物干竿に忘れ衣や天の川 琦村

馬背飽きし飼ひ山河天の川 可好

孔子廟の森の暗さ天の川 美突

浴衣濡るゝ踏み堤や天の川 伯浪

徒渉る水の廣さよ天の川 越牛

汲の果てに落ち行く銀河哉 雲中

霧

霧深き沖に舫へる巨船哉 越山

霧晴るゝ咫尺の船の汽笛哉 龜城

霧の中に船の灯滲く昏かな 指月

花乘りの炊ぐ煙や霧の中 味月

霧濃しく先追の松明は濃き 要村

低き家並灯ぬ霧の中 二葉

月小夜

高麗人蔘エキスは品質の純良を以て多大の信用と賞讃を博しつゝある
京城府明治町二丁目 小笠原大藥房
電話一九四八番 振替京城一七五二番

新刊紹介

▲開くべき支那資源(木村增太郎著) 著者は山口高等商業學校支那貿易科主任として又支那事情の研究者なるが本七月下旬より一ヶ月間支那に於て探究し得たる經濟知識を以て探究し殆んど紙背に徹する程の最も信頼するに足るべき參考資料を提供したるもの…(上卷一冊二十錢 山口高等商業學校內東亞經濟研究會)

▲學生(金風與々號) 大町桂月氏の主宰にかゝるもの、科學文藝其他多方面に亘りて趣味あり實益ある記事を滿載せり獨り學生のみならず普通の智識階級にも歡迎せらるべき雜誌なり(二十錢 東京神田富山房)

▲亞細亞時論(一の四) 東洋問題を極めて眞面目に公平に論議報道したるもの殊に支那事情を知らんと欲する者には絕好無二の參考資料たるべし(三十錢東京赤坂溜池 一黑龍會)

▲實生活(二の一三) 實生活を研究して一般の社會に光明と慰安とを與ふべき主意にて發行されたるもの(十錢東京芝伊皿子四二 其社)

▲一大帝國(二の一一) 滿鮮支那特別號として滿小事の鮮滿旅行視察記の外時局に關する論議豐富なり(十六錢東京芝琴平町二 其社)

▲ジャパンタイムス學生號(七の四十錢東京麴町內幸町一の四ジャパンタイムス社)

▲英文タイムス(三) 十二錢東京芝南佐久間町一の一英語研習社)

▲戰事畫報(一七) 精巧なるアートタイプは一見してコロタイプと見誤ふ許りなり最も廉價なる記念寫眞帖なり一部五錢(英國倫敦其發行所)

▲精神界雜誌(一一二) 特別倍號にして上古の玉(高楠健自)德川期の殿堂形刻(高村光雲)天狗師の現在(鏑木清方)古長安(關野工學博士)飛雲(杉子陳)其他美術工藝骨董古器等に關する記事豐富なり(三十五錢東京芝南佐久間町一二 其社)

讀者の領分

▲東大門小學校通學の件に付(秋心氏)の言ふ處は所謂温室育て一寸隣りに行にも電車とか人車かと送迎すると平素小供の體力を積極的に鍛錬する機會が乏しい五丁や八丁の道は慣らし堅忍不拔の精神を養ふ事に心掛る可し又(無名氏)の言ふ處は學校の位置を難じたるにあらず寒暑雨雪天氣の時は休校の止むなきに至らん乎と中流以下の借家の企畫ありたしとの事にて中流家庭と見受くる子弟の電車の便に寄つて登校するあるを見るに(親心氏)の希望する體力鍛錬の應用せられざるを遺憾とす京城は大都市なり山間僻陬と趣を異にす氣長く待てば三年や五年の間には學校迄は人家も櫛比すべく子を持つ親は學校附近に移住し得らるべければ一日にても廢學するは教育上の不辭事なれば成るべく休校せざらん事を欲するには無名氏の言ふが如く當局又は有力者に因て校舍又は借家建設の擧あらば實に勸學の一助なりと思ふ(雛憂生)

▲先般盛南を旅行の途次○○に遊石の日(鴨綠江の上流木材產地にて著名の地)浪花節語りが同學校組合管理者名義の回章を持ち組合員各戶に興行入場券を頒し組合員も管理者名義に對し不精々々買入れ居るを見受けたり其內情は同地方も藝人の巡行毎月二三組もあり人氣惡敗に付右藝人が管理者を說付け收入金の幾分を公共團體に寄附の條件附にて承諾を得たる由なるも公職たる管理者が斯く一藝人の太鼓持の如く見ゆるにては組合員はブツ〜〜云ひ居り兎角僻地は非常識の事多く候(旅行生)

▲先日清溪川北側の銀細工家の事ありしが今度は本町通りより櫻井町に入る角の家は下水溝の上及び道路の一部に家屋を建出しあり如何にも舊時代を思はしむ何とか仕樣の無きものにや(目醒生)

大阪株式同電

(九日前場) 鐘淵紡績 同新株 東洋製糖 大阪商船 ……

(九日後場) ……

▲九日後場 …… 大阪四十四錢 ……

▲新古米の差 ……

▲仁川現物界 ……

九日の十一月限 ……

天氣 晴一時曇り

御園白粉

白粉の白さはさも白粉をつけましたと云ふ樣に見えるのではいけません

つけた人が色の白い生れつきと思はれる程肌にシツクリ合つて、しかもつけるのに骨を折らずとも、つけさへすれば生れつき白いやうに見ゆるのでなければなりません。

試に

御園クレームを顏から襟へ極く薄く引きまして御園煉白粉を粧けて御覽なさいまし

クツキリと色白に

眼鼻立ちも鮮かに見ちがへるほど美くしくなること不思議な位で御座います。

他の白粉を使つて

思ふ樣な御化粧の出來なかつたお方は是非今日試して御覽遊ばせ即座に驗が見ゆます。

御園化粧品 本舗 伊東胡蝶園

御園化粧品 發賣元 丸見屋商店

内科、眼科 小兒科 本田醫院
京城黃金町二丁目 電話二四四三 振替京城三二八番
院長 本田

痔核。痔瘻。脫肛痔 裂痔。痔出血。直腸脫
京城肛門病院
肛門病の話 御解說書入用の方は郵券十二錢要

質 大口低利 田村質店
黃金町二丁目 電話二九一六番

りん病ばい毒 患者諸君 にせドラッグあり御注意
詐欺漢なり
京城南大門外 花柳病專門藥房 ドラッグ商會

品質第一 誠實第一 賣行第一
キッコーウ 最上醬油
仁川港 元醸造
日本醬油株式會社
京城出張所
京城大平通二丁目 電話二四五番

消化と毒けし 仁丹
德用で輕便な 金言容器 仁丹十五錢包添附
金言 誠なれば德を得て盤石の如し (南公家訓)

京釜間自動車著發時刻 …… 織居自動車部 金泉支部 ▲小荷物運搬仕候 金泉電話四八番

汽船 釜山出帆廣告
門司、神戶、大阪行 和歌浦丸 十月八日後五時出
立神丸 十月十九日後五時出
元山、淸津、浦鹽行 和歌浦丸 十月十八日後十時出
立神丸 十月 日後四時出
元山、西湖、新浦、城津、淸津行
第三琴平丸 月 日後六時出
門司、宇品、神戶、大阪行 第三琴平丸 月 日後六時出
佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 大與丸 毎月二日九日十四日廿一日廿六日)午後十時出帆
釜山港埋立新町 本船取扱店 大池回漕部

阿波共同汽船仁川出帆
芝罘、大連行 第廿共同丸 十月十日午後入港 十月十二日後十時出帆
朝鮮鐵道主要驛にて荷客連絡輸送取扱仕候
阿波共同汽船株式會社
仁川代理店 野口商會 本町四丁目(電話一七三番)
元山代理店 田口回漕部
京城取次店 河村運送店

朝鮮郵船 ……
大阪商船仁川出帆 ……
尼崎汽船仁川出帆 ……
日本郵船仁川出帆 ……